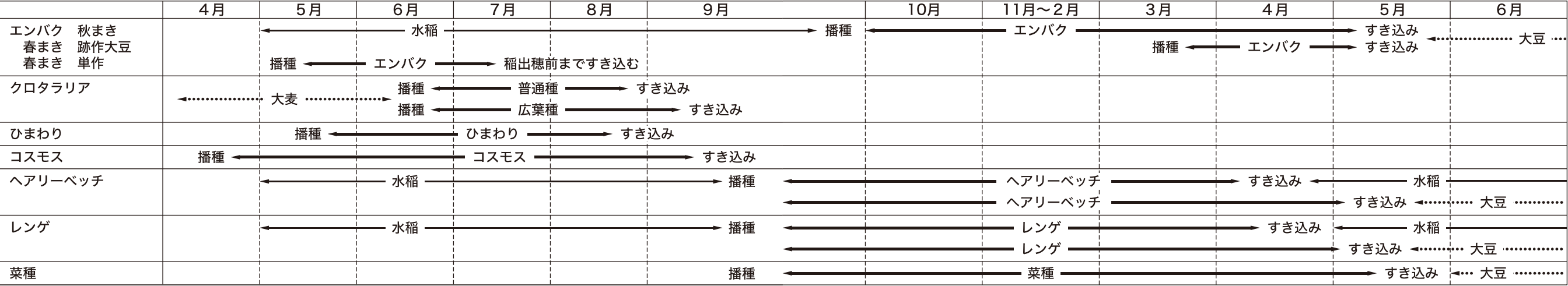
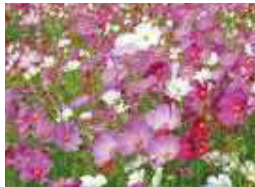


主な地力増進作物・景観作物 の生育特性と栽培のポイント



作物名	エンバク	クロタラリア		ひまわり(景観作物)	コスモス(景観作物)	ヘアリーベッチ	レンゲ	菜種
生育特性	①イネ科の1・2年生作物 ②発芽の最低温度は0～2℃と低く、生育最適温度は24～25℃で最低5℃、最高30℃の範囲。	①マメ科の1年生作物 ②ネコブセンチュウ密度抑制に効果がある。 ③普通種(細葉)は播種後約60日で草丈は1.5～2mに達する。 ④広葉種は草丈が1.0～1.5m程度で普通種より生育量は小さいが、茎が軟らかく、硬化が遅いためすき込みやすい。		①キク科作物 ②播種後60日程で開花が始まる。子実は開花後50日程で成熟する。 ③無施肥では生育しないが多肥にすると倒伏する。	①キク科作物 ②草丈100～150cmになる。 ③初心者でも育てやすく開花期が長い。	①マメ科の越年性作物 ②草丈は1.5m前後になるが軟弱で40cm程度に匍匐する。 ③他感作用があり跡作物の生育初期の雑草を抑制。 ④早生種は積雪下では腐りやすいので避ける。	①マメ科の越年生作物 ②草丈40～60cm、生草重が3～4t/10aと生育量が大きい。 ③根雪日数が60日を越える場合は、融雪促進をする。	①アブラナ科作物 ②草丈80～120cmになる。 ③近くにアブラナ科の野菜がある場合は栽培を避ける。
排水対策	畑作物なので排水の良否が生育の良否を決める！ 額縁排水溝は必ず設けるとともに、耕起時に片培土器（サイドリッジャー）などで畝を立てる事が望ましい。							
基 肥	基肥555:40kg/10a	肥料は特になし		基肥555:25kg/10a	肥料は特になし	肥料は特になし	肥料は特になし	基肥555:12kg/10a
品 種	緑肥ヘイオーツ	普通種	広葉種	ロシアひまわり	コスモスセンセーション混合	寒太郎(晩生)、ヘアリーベッチ	レンゲ	農林16号、菜の花
播種時期	10月又は4月上～中旬 単作の場合5月～6月	6月～7月中旬		5月中旬～6月中旬	4月～6月下旬	9月～10月中旬	水稻収穫後～10月上旬	10月～11月
播 種 量	6～8 kg/10a	散播 6～8 kg/10a	条播 3～4 kg/10a	2～3 kg/10a	1～1.3kg/10a	3～4 kg/10a	3～4 kg/10a	1～2 kg/10a
播種方法	全面散播。耕起から播種、作溝の一連の作業を1日のうちに終える。 播種後に浅耕または鎮圧すると発芽が安定する。							
すき込み方法 と 跡作物の 注意点	すき込みはフレールモアで細断後にロータリーで行うか、ブラウや アップカットロータリー、ツーウェイロータリーを使用して行う。							
	①乳熟期～湖熟期にすき込む。春播きは播種後70日前後。 ②跡作大豆の場合は、すき込み時に石灰窒素を40kg/10a程度施用する。 ③すき込み後2週間程度たってから代かきや大豆播種を行う。  ＜エンバク＞	①普通種は開花始め頃(播種50～70日後)、広葉種は播種後60～80日後を目安にすき込む。 ②普通種は伸長しやすいので、すき込み時期は草丈1.5m前後までとする。 ③すき込みが遅れると木質化し、茎がフレールモアに絡んで作業に支障をきたすので、注意する。   ＜普通種＞ ＜広葉種＞	残稈を分解させるため、播種60日以降の開花期頃にすき込む、開花期を過ぎると茎が硬くなるので遅れないよう注意する。  ＜ひまわりサンマリノ＞	開花始めから開花期にすき込む。  ＜コスモスセンセーション＞	①4月末～5月上旬の開花期頃にすき込む。 ②生育量を出来るだけ確保してすき込む。 ③跡作の大豆栽培ではタネバエ防除(クルーザー MAXXの塗沫等)を必ず実施する。 ④大豆の基肥窒素は基本的に不要だが、苦土石灰は必ず散布する。  ＜ヘアリーベッチ＞	①開花最盛期にすき込む。 ②すき込み後、1週間は畑地状態で分解を促進させる。 ③すき込み後2週間程度たってから代かきを行う。 ④跡作の大豆栽培ではタネバエ防除(クルーザー MAXXの塗沫等)を必ず実施する。  ＜レンゲ＞	①開花始めから開花期にすき込む。 ②すき込みは草丈50cm前後とする。 ③すき込み時期が遅れると結実するので注意する。  ＜菜種＞	